

フレンズ 第27号

特別養護老人ホーム
 短期入所生活介護事業
 通所介護事業（4カ所）
 認知症対応型通所介護事業（2カ所）

発行日 平成23年7月25日
 居宅介護支援事業（2カ所）
 地域包括支援センター（2カ所）
 （世田谷区委託/介護予防支援事業）

被災地に職員を派遣して

—災害時の迅速な対応も社会福祉法人の使命のひとつ—

統括施設長 飯田能子

東社協から「職員派遣に関する調査」依頼を受けて、私は即座に関係職員を招集し、人選に取り掛かった。自薦、他薦の中で介護職員1名、生活相談員1名を候補に選び、派遣可能期間は4月4日から2週間ということで回答した。

私が人選に際して考慮したことは、想像を絶する被災地の様子がリアルタイムで報じられる中、介護の技術は当然にしても、どのような状況にも何とか対処できる体力とコミュニケーションの力を備えていることであった。当施設の現状から複数の職員が抜けるのは厳しいが、連れがあれば心強いだらうと考えた。候補の2名はどちらも女性である。彼らは第1班で被災地に赴き、4月10日から15日の期間で、中4日、主として介護業務に従事した。

気仙沼にある春圃苑（定員50名、ショート10名）には当時、115名が収容されており、ほぼ半数が避難してきた要介護者であった。派遣した職員たちは、施設からの要求（タイムスケジュールに沿った排泄と食事の介助、清拭、シーツ交換）が5割で、残りの5割は臨機応変に清掃や話し相手などを、という指示を受け、重度者が40名ほど（半数は経管栄養）収容されている区画を担当した。

現場では利用者の配置換えが頻繁に行われ、地震直後の過酷な業務が影響して、スタッフには体調不良者が続出している状況にあった。被災地には、とりわけ介護を提供する場合、何よりも明るい人柄でコミュニケーションが取れる元気な人が求められている。た

だでさえ混乱している現場では、自分がスタッフのストレスにならないように配慮できること、スタッフと仲良くなれること、このことはスタッフとの信頼関係を築くためには重要である。介護を受けた高齢者からいただいたという「若い女性が東京から来てくれてうれしかった」、「女性は華があっていいね」というお礼の言葉も参考までに付け加えておきたい。

今般の職員派遣要請にはさまざまな理由で応えられなかった施設もあったことだろう。被災地の施設への配慮は、派遣側の都合ではなく、介護人材の質を考慮することが必要であること、被災地側のニーズの緊急度を推し測る度量が社会福祉法人には求められていることの2点を抑えておきたいと思う。社会福祉法人のあり方が議論される中で、「公にかわるもの」としての役割と使命をわれわれは自覚し、高い公共性と公益性を形に示すことが求められている。災害への迅速な対応もその一つである。資質の備わった介護人材の養成を梃子に社会貢献ができることこそ社会福祉法人の施設長冥利に尽きるとは言えまいか。

今回、年度初めにもかかわらず、快く彼らを送り出した同僚たちの存在、同時並行で職員や利用者呼びかけた義援金の総額67万円余に、3. 1 1が私たちの心に刻んだ傷跡の深さに怯みながらも、「何か」が組織の中に生まれてきたことに私は感謝している。

（4月28日記）
 （東社協高齢者施設福祉部会広報誌「アクティブ福祉」第6号より転載）

ハイライト

○巻頭言
 被災地に職員を派遣して

○しながわ水族館へ
 行ってきました

目次:

| | |
|---|---|
| 巻頭言 被災地に職員を派遣して | 1 |
| 特集 東日本大震災 被災地派遣を経験して -東社協の派遣協力体験談- | 2 |
| 義援金の募金を終えて -お礼とご報告- | 3 |
| 連載 地域の絆 ⑤ | 4 |
| フレンズ祭り 開催のお知らせ | 4 |

被災地派遣を経験して フレンズホーム 生活相談員 今坂 寛子

私と3階ケアワーカー遠地職員の2名は4/10～4/15の6日間、宮城県気仙沼市の特別養護老人ホーム春圃苑への派遣に参加させて頂きました。春圃苑は、リアス式海岸の美しい景観の高台にある定員60名ほどの施設です。施設自体の目立った損傷はありませんでしたが、海拔25メートルにある春圃苑を下から見上げると、施設まであとわずか2～3メートルのところまで津波が押し寄せていたことがはっきりわかるほど草木が抉られていました。当時、春圃苑には、定員の約2倍の人数の要介護者が入居していましたが、半分以上の方が被災した高齢者です。4人部屋には6名入り、1人部屋には2～3名入り、それでも部屋が足りずに、ベッドを廊下やリビングにも設置していました。また、高齢者だけでなく、自宅を失った職員やその家族らも施設内で寝泊りしている状況でした。職員は、震災当日から過酷な労働に加え、精神的に休まらないなか、現場職員の人数が足りないために、

休みもなく働く日々が続いていました。そのため、体調不良者が増え、精神的にも、肉体的にも憔悴しきっている状況でした。そのなかで私たちは、与えられた短い期間の間に、現地職員との信頼関係を築きながら、利用者や職員の心情を察し、受容することを常に念頭に置き、活動しました。



被災した職員の子も達と

被災地が完全復興するには相当な歳月がかかると思います。実際現場を見て、話を聞いて、体験して感じたことは多々ありますが、そのなかで私たちにできることは、今後も継続的に、必要な支援活動を行っていくことが大事なのではないかと強く感じました。

被災地が完全復興するには相当な歳月がかかると思います。実際現場を見て、話を聞いて、体験して感じたことは多々ありますが、そのなかで私たちにできることは、今後も継続的に、必要な支援活動を行っていくことが大事なのではないかと強く感じました。

絆

フレンズホーム ケアワーカー 遠地 祐佳



被災地派遣第1陣の皆さん

東京都からの派遣は私達が初めてで、手探りのような状態でした。私達が到着した4月10日の時点では未だ水道は断たれたままでしたが、電気、ガスは復旧しており、温かい食事が摂れる等、想像していたよりもいくらか過ごしやすい環境まで復旧していました。しかし、施設までの道程で目に飛び込む景色は、TVで流れている光景そのまま、とても衝撃を受けました。そのような環境にある春圃苑では、職員の皆様や利用者様がとても温かく迎えてくれ、お手伝いをしに行ったはずなのに、むしろ色々と気を遣わせてしまったのではないかと心配になるほど、現地の方々はとても良くして下さいました。被災者の立場で

東京都からの派遣は私達が初めてで、手探りのような状態でした。私達が到着した4月10日の時点では未だ水道は断たれたままでしたが、

も、心配り、心配りのできる心の広さに、とても感銘を受けました。

私達ボランティアが求められた支援は、「共感」と「同情」で、親身になって利用者様と接することでした。震度6強の揺れと、一瞬にして街を破壊した津波、そして連日続く余震による現地の方々の不安や恐怖は計り知れません。涙ながらに話される方もおり、少しでも気持ちが楽になるようにと、コミュニケーションをしっかりと取る事を心掛けて過ごしました。

この6日間を共に過ごした現地の方々や、同じ第一陣として行ったボランティアの皆様との間に確かな「絆」が生まれ、今回の経験は私にとって一生忘れることのできない良き思い出となりました。この度の派遣にともない職場の皆様には大変ご迷惑をおかけしましたが、とても貴重な経験をすることができました。本当にありがとうございました。

東北地方太平洋沖地震への義援金の募金をおえて — ご協力に対するお礼とご報告 —

去る3月15日付で募金をお願いをしておりました「東北地方太平洋沖地震への義援金」の受付は、4月25日をもって終了させていただきました。日本フレンズ奉仕団の施設、事業所の関係者の皆様から、総額**672,589円**もの浄財が寄せられました。この義援金は、下記のとおり2団体の義援金受付口座に**472,589円**と**200,000円**に分けて振込みました。ここに、ご報告とともに皆様のご協力に対して、心から感謝を申し上げます。

3. 11は、私たちの心に深い傷を刻み、自分たちの足元を見つめなおすことを迫っています。今なお、被災地で苦しんでおられる多くの方々に、この義援金と皆様の祈りが届くことを願って、お礼とさせていただきます。

平成23年4月27日

社会福祉法人 日本フレンズ奉仕団
統括施設長 飯田 能子

1. 東北地方太平洋沖地震への義援金の募金報告

(施設・事業所別)

| | |
|-----------------------|----------|
| フレンズホーム (職員) | 127,988円 |
| フレンズケアセンター (職員) | 48,708円 |
| フレンズ世田谷センター (来訪者・利用者) | 55,227円 |
| デイ・ホーム三茶 (職員・利用者) | 11,310円 |
| デイ・ホーム上馬 (職員・利用者) | 162,356円 |
| デイ・ホーム中丸 (職員・利用者) | 267,000円 |
| 計 | 672,589円 |

2. 義援金振込み先の団体と金額

| | |
|--------------|----------|
| ①東京都社会福祉協議会 | 472,589円 |
| ②全国老人福祉施設協議会 | 200,000円 |

義援金を寄付すること

フレンズホーム ケアワーカー

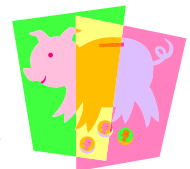
塩山 あかり

この度の東日本大震災で、被災に遭われた多くの方々に、心よりお見舞い申し上げます。

震災当日、私は父の入院先にいました。この頃、私達家族は皆で父の命を助けようとい丸となっていました。午後2時46分、父の検査の最中に、大学病院の大きな建物が強く揺れました。とても心配し、不安になりました。テレビをつけると、走っている車が津波に襲われ飲み込まれる映像、爆発を繰り返す映像が繰り返し流れ、それはこの世の物とは思えない惨状でした。

その後、父の検査は中止され病室に無事に戻ってきたのを確認。今度は自宅にいた祖母が心配に

なって、交通状況が悪くなる中やっと帰宅しました。すると、小学校のころから貯めていた貯金箱が、棚から落ちて割れ、お金があたり一面ちらばっていました。震災でたくさんの命やたくさん大切な物を失い、生きる希望をなくしてしまった方々が大勢いることにショックを受けていたので、その方々のために使いたいと、とても自然に思いました。フレンズで義援金の呼びかけが始まり、前向きに生きて欲しいという願いと一緒に、貯金箱のお金を寄付することに決めました。



しながわ水族館へ行ってきました

6月29日。真夏のような天候に恵まれフレンズ一行は小旅行に行って来ました！

今回の目的地は、しながわ水族館。フレンズホームから福祉バスを利用して約40分の人気スポットです。車内では職員がバスガイド役をしたり、東京タワーや東京湾を車窓から眺めたりする事もできてにぎやかな道のりでした。水族館では、まず始めにイルカショーを鑑賞しました。3頭のイルカたちが華麗な芸を見せてくれて、会場は大盛況！時には失敗があるのもご愛嬌です。見入っていた利用者さんたちの表情は、驚きと笑顔でいっぱいでした！ショーの後はランチタイム。交流も兼ねてゆっくりとお食事をしていただき、午後からは各自自由行動です。ソフトクリームを食べたり、

アザラシやペンギン、キラキラした色とりどりの魚や大きな魚など、心ゆくまで隅々と堪能しました。最後は全員で記念写真を撮り、この日を締めくくるとびっきりの笑顔となりました。

フレンズ小旅行は、ご家族のお力をお借りして大成功となりました。いつもとは違う景色や場所で過ごされ、良い刺激になったことと思います。またこのような企画をして、たくさん思い出をつくっていききたいですね。

(フレンズホーム 金田 尚子)

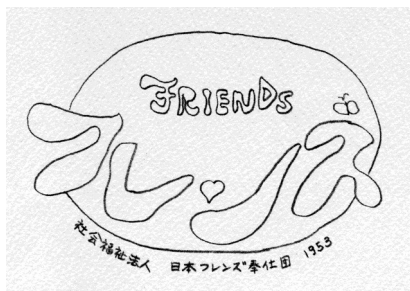


華麗なイルカショー



お母さんとツーショット

〒154-0002
世田谷区下馬2-21-11
電話 03 (3422) 7211
Fax 03 (3422) 7227
Email info@n-friends.or.jp



であい・ふれあい
地域のささえあい

ホームページもご覧下さい。
<http://www.n-friends.or.jp/>

- 世田谷区下馬2-21-11 TEL 3422-7211(代)
フレンズホーム / フレンズケアセンター
下馬あんしんすこやかセンター
- 世田谷区三軒茶屋2-32-14 TEL 5486-6262
デイ・ホーム三茶 フレンズ三軒茶屋介護保険サービス
- 世田谷区上馬4-36-9 TEL 5430-8050
デイ・ホーム上馬 上馬あんしんすこやかセンター
- 世田谷区野沢3-25-10 TEL 5486-7400
デイ・ホーム中丸・認知症デイ「ひだまり」
フレンズ介護保険サービス

編集後記

3月11日、午後2時46分、フレンズセンタービルの4階建ての建物が、遊覧船の如く大きく揺れた。階段は波打ち、普段は重く閉まっている鉄の防火扉が大きな音をたてて開閉を繰り返した。「落ち着いて行動してください。」の館内放送にはっとし、お年寄りの肩を抱いて、「大丈夫、大丈夫。」を繰り返した長い時間を忘れられない。あれから4か月余り、死亡者数1万5千人を超え、被災地は今だ瓦礫の処理も儘ならず、特に原発事故に及んだ福島では後世に及びかねない汚染が続いている。関東の生活も一変し、無限だと思っていた電気は有限であり、福島の犠牲の上に成り立っていた贅沢であったと知った。

本号で被災地派遣を経験した職員が、「一度きりではない継続的な支援が必要」と書いてしているが、皆で工夫しながら節電を遂行し、我々に出来る継続的な復興支援を模索していきたい。(k)

=連載= リレーエッセイ 地域の絆 ⑤

少子高齢化・核家族化が進行した昨今、各世代での交流の場が減少しています。特に高齢者が子供たちと身近に接する機会が少なくなっています。フレンズケアセンターでは子供たちとのふれあいの場として、近隣にある中里小学校の子供たちと毎年7月に「七夕交流会」を行っています。

今年も色とりどりの飾りをつけた笹竹を先頭に小学1年生の子供たちが遊びに来てくれました。初めのうちは外出できた嬉しさからか落ち着きがなく、気持ちここにあらずという雰囲気でも入場してきましたが、七夕の歌をご利用者の皆様と合唱していくうちに笑顔になり自然と和やかな宴へと変わっていききました。特にご利用者皆様が心待ちされていた似顔絵の時間となるとより身近になり、一緒にVサインをして記念写真をとってもらおう子供たちもたくさんいました。何よりも特徴をとらえた似顔絵に皆様終始ご満悦で、子供たちへ感謝をこめた優しいまなざしが印象的でした。

今年のご利用者・子供たちの短冊をのぞいてみると「東日本大震災後の早期復興」「平和」を切に願っている言葉が多く、老若男女問わず願う気持ちは一緒なのだと思える交流会となりました。

フレンズケアセンター 原田大輔

お知らせ

フレンズ祭りを今年も開催します。

日時：平成23年10月30日(日)10:00~14:00

場所：フレンズホーム（下馬2-21-11）

恒例のバザーを始め、演芸大会、傘修理や足裏マッサージ、布草履作り、模擬店などの催しを企画しています。みなさまのお越しをお待ちしています。

- ◆ 献品をお願い致します。雑貨、食器、タオル・シーツ類、食品で、新品・または未開封のものをお願い致します。使い古しのタオル・バスタオル類は、清拭として使わせて頂きますので、切らずにそのままお持ち下さい。